■福永武彦　　詩人・作家。若い頃は結核と，中年以降は胃潰瘍と闘いながら，詩人の魂を持つ人間を描き続けた。
ふくながたけひこ
本格政党内閣1918＝　　福岡県の廿日市に生れた。

　　三井銀行員の父の転任で，一時，横浜，佐世保で過したあと，福岡市に住む。
原敬首相暗殺1921＝ 3歳：

護憲三派圧勝1924＝ 6歳：福岡市の小学校に入学。母が死去。

円本時代始・1926＝ 8歳：父の東京本店転任に従い，上京し，転校。
金融恐慌・・1927**＝ 9歳：**小石川の日本少年寮に入り，再び転校。

海軍軍縮条約1930＝12歳：東京開成中学に入学。同期の**_中村真一郎を知り，終生親交を結ぶ。**
満州事変・・1931＝13歳：

帝人疑獄事件1934＝16歳：4年で修了し，第一高等学校文科丙類に入学，寄宿寮に入り，弓術部，弁論部で活躍。
芥川直木賞始1935＝17歳：一高が寮とも駒場に移転。〝草の花〟体験。父と郷里へ旅行。校友会誌などに詩・小説・俳句を発表。
二二六事件・1936**＝18歳：_{帝国大学新聞}の映画批評に応募した「詩性の敗北」が入選，掲載される。寮を出て，小石川の自宅から通学。校友会誌の編集にあたり，に詩・小説を発表。**
日中戦争始・1937＝19歳：一高を卒業，東京帝国大学法学部の受験に失敗，
健保+総動員 1938＝20歳：同文学部仏文科に入学。
第二次大戦始1939＝21歳：**_{映画評論}の同人となり，まる2年，ほとんど毎号，映画や劇の評論を発表。**
日米開戦・・1941＝23歳：仏文科を卒業，日伊協会に就職し{日伊文化研究}の編集担当。**_「風土」の執筆開始。堀辰雄の知遇を得る。**
・・・・・・1942＝24歳：日伊協会を退職。参謀本部で暗号解読に従事。**_中村真一郎，加藤周一らと文学グループ{マチネ・ポエティク}を結成し，押韻定型詩をこころみる。肺炎で一時病臥。**
創価学会検挙1943＝25歳：参謀本部を退職。東大の仏文研究室でフランス文学辞典の編纂に従事。
年金+総武装 1944＝26歳：日本放送協会国際局に勤務。(原條あき子)と結婚。
敗戦・・・・1945**＝27歳：**帯広に疎開，長男(池澤夏樹)誕生。**_放浪し，「風土」を書きつぎ，東京で短編「塔」執筆。**
新憲法公布・1946＝28歳：退職し，帯広中学校の英語教師となるが，肺結核となり，
新憲法施行・1947＝29歳：**_東京清瀬の国立療養所に入り，以後足掛け7年療養生活をつづける。「ボオドレエルの世界」刊，**
極東裁判決・1948＝30歳：**_「塔」，共著「マチネ・ポエティク詩集」，詩集「ある青春」刊行。**
朝鮮戦争始・1950＝32歳：協議離婚。**_「風土」第二部に着手。**
独立回復・・1951＝33歳：帯広高等学校を退職。トロワイヤ「蜘蛛」訳。ほかに共訳二冊も刊行。
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝34歳：**＊長編「風土」を刊行し，西欧的ロマンとして注目された。信濃追分に滞在，堀辰雄に再会。**
ﾃﾚﾋﾞ放送始・1953＝35歳：国立療養所を退所。学習院大学文学部講師となり，以後没するまで在職。再婚。翻訳2冊刊行。堀辰雄が死去，堀辰雄全集編集委員となる。友人の加藤道夫が自殺。
自衛隊発足・1954**＝36歳：＊「草の花」によって，作家としての位置を確立した。加藤道夫の山荘を譲り受け，以後毎夏を過す。フォークナーやボードレールに関心をもち，人間の暗黒意識を主題にした「冥府」，**
55年体制始・1955＝37歳：**_「夜の時間」など，〝夜の三部作〟を書いた。**
国連加盟・・1956＝38歳：加田伶太郎の名で探偵小説「完全犯罪」を発表。「愛の試み」，現代語訳「古事記」。
なべ底不況・1957＝39歳：ボードレール「巴里の憂愁」訳。
ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958＝40歳：**_船田学の名でSF小説「地球を遠く離れて」を発表。短編集「心の中を流れる河」ほか。胃潰瘍で入院。**
美智子妃・・1959＝41歳：短編集「世界の終り」，
安保闘争・・1960＝42歳：短編集「廃市」。胃潰瘍で再び入院。詩人の魂をもった人間を書くため，芸術家主人公にした作品が多く，
ｲﾀｲｲﾀｲ病始・1961＝43歳：**_毎日出版文化賞の評伝「ゴーギャンの世界」も同じ念願のあらわれである。**
全国総合計画1962＝44歳：作品集「告別」。**_「死の島」の稿を起す。**
TV宇宙中継始1963**＝45歳：_「ボードレール全集」編集刊行。胃潰瘍で再び入院。**
東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ 1964＝46歳：「忘却の河」。
大学紛争始・1965＝47歳：「芸術の慰め」，訳詩集「象牙集」。
いざなぎ景気1966＝48歳：**_胃潰瘍で再び入院。「福永武彦詩集」「福永武彦作品・批評A」刊行。**
美濃部都知事1967＝49歳：「幼年」。
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝50歳：長編「海市」「風のかたみ」，「福永武彦作品・批評B」，絵本「おおくにぬしのぼうけん」刊行。
全共闘・・・1969＝51歳：作品集「幼年その他」，第一エッセイ集「別れの歌」，「夜の三部作」刊行。
大阪万博・・1970＝52歳：「加田伶太郎全集」，第二エッセイ集「遠くのこだま」。胃潰瘍で再び入院。
ﾄﾞﾙｼｮｯｸ・・ 1971＝53歳：第三エッセイ集「枕頭の書」。**＊長い成熟の時間を経て完成された長編「死の島」は，作者の到達点を示すとともに，現代小説の原点として高く評価され，**
日中国交回復1972**＝54歳：_日本文学大賞。胃潰瘍が悪化，以後入退院を繰返す。**
石油ショック1973＝55歳：作家論集「意中の文士たち」，美術論集「意中の画家たち」，「福永武彦全小説」。
角栄金脈辞任1974＝56歳：「海からの声」，第四エッセイ集「夢のように」。
ｸｱﾗﾝﾌﾟｰﾙ事件1975＝57歳：「独身者」，第五エッセイ集「書物の心」。
田中角栄逮捕1976＝58歳：父が死去。詩文集「櫟の木に寄せて」。
JALﾊｲｼﾞｬｯｸ・1977＝59歳：歌句集「夢百首雑百首」。病床で洗礼を受ける。
成田衝突・・1978＝60歳：第六エッセイ集「秋風日記」，評論「内的独白」。
革新大敗北・1979＝61歳：「異邦の薫り」。**_胃潰瘍がさらに悪化し，脳内出血で没した。**

新潮日本文学アルバム，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，